

(技術名) 大玉で良食味な生食用パインアップル新品種候補「沖縄19号」							
(要約) パインアップル新品種候補「沖縄19号」は平均果実重が1.3kgを超える大果で良食味な中晩生系統である。株出し体系でも大玉果が得られ、既存品種「ソフトタッチ」よりも水浸状果実の発生率が低く、収量と品質の両面で生産性向上への貢献が期待できる。							
農業研究センター名護支所・果樹班					連絡先	0980-52-0052	
部会名	果樹	専門	育種	対象	パインアップル	分類	普及
普及対象地域	沖縄県の酸性土壌地域						

[背景・ねらい]

沖縄県におけるパインアップル生産は生食用品種の比率が増加しており、その重要性は年々高まっている。近年、消費や販売形態の多様化から、従来からの青果としての出荷だけでなく、カットフルーツ等を始め生食用および業務用としての需要増大も期待されている。しかし、既存の生食専用品種は加工利用を前提としていないため、小ぶりで果肉歩留まりが低く収量性にも劣る。そのため良食味かつ大果で果肉歩留まりの良い多収な新品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 「沖縄 19 号」は、2000 年に農業試験場名護支場（現農業研究センター名護支所）において交配が行われ、「ゆがふ」に「ソフトタッチ」を交雑して得られた実生から選抜している（図 1）。2003 年に第 1 次選抜（個体選抜）を行い、2～4 次選抜を経て、2008 年より現在の系統名を付し、名護および石垣において地域適応性を検討し、新品種候補として選定された。
2. 冠芽はやや大きく、果形はたる形、果皮色は黄橙色、果肉色は白～帯黄白である（図 2）。
3. 平均収穫日は「N67-10」と比べ、名護では早く石垣では遅い中晩生に分類される。自然夏実の平均果実重は 1.3kg 以上となり、生食用品種の「ソフトタッチ」、「ボゴール」より重く、株出し栽培の 2 回目収穫果も 1.0kg を超えるため、高収量が期待できる（表 1）。
4. 自然夏実の糖度は 16.1～17.0°Brix で「ソフトタッチ」と同程度であり、酸度は 0.63～0.64% で対照品種よりも低く、糖酸比が高い（表 1）。甘いココナッツ様の特色のある芳香を持ち、果肉歩留まりは重量比 55%で既存生食用品種よりも高く、加工生食兼用品種の「N67-10」と同程度である（データ略）。
5. 露地栽培において水浸状果実の発生は「ソフトタッチ」と比べて少ない（表 1）。
6. 本島北部地域（名護）において、ビニールハウス施設を利用した促進夏実体系は水浸状果実や裂果の発生を低減させる効果があり、露地栽培の自然夏実と比べ平均果実重も重くなる（表 1、表 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 生食用品種生産農家を対象にした品種となる。
2. 促進夏実体系は、八重山地域では露地栽培で実施可能であり、本島北部地域では低温による水浸状果実や裂果の発生が懸念されるためハウス栽培が望ましい。
3. 春植えの作型では早期出蕾しやすいため、夏植えが適している。
4. 出蕾時の気象条件により裂果の発生がみられる。
5. 果柄長が長い必要に応じ倒伏防止対策を実施する。
6. 苗は「ソフトタッチ」と酷似しているため、植え付け時の混入には留意する。
7. 2019 年度中に品種登録申請を行う予定である。

[具体的データ]

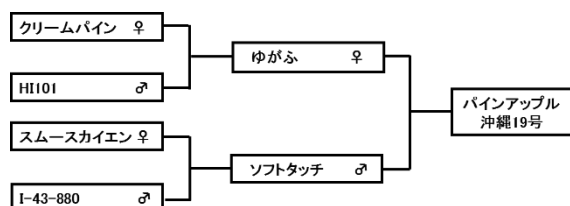


図1 沖縄19号の系統図



図2 沖縄19号の結実状況および果実断面

表1 夏植えー自然夏実体系における果実特性および栽培特性関連形質(2014~2018年平均)

収穫 体系	試験 地	系統・ 品種名	出蕾率 (%)	平均 収穫日	果実重 (g)	果汁				裂果 ^z 発生率 (%)	水浸状 果実 発生率 (%)	小果 腐敗病 発生率 (%)	発生苗		果柄長 (cm)
						量	糖度 (° Brix)	酸度 (%)	糖酸比				えい芽 数 (本)	吸芽 数 (本)	
自然 夏実	名護	沖縄19号	95.9	8/12	1312	中-多	16.1	0.63	26.4	9.0	28.7	14.2	5.2	1.2	28
		N67-10	85.3	8/24	1482	多	14.3	0.81	18.1	14.8	49.4	14.6	2.1	0.9	14
		ボゴール	81.1	7/18	802	少-中	18.1	0.75	25.2	0.3	6.4	8.1	3.2	1.8	18
		ソフトタッチ	77.3	7/19	776	中	16.8	0.75	22.9	1.7	66.2	15.8	5.8	1.3	28
	石垣	沖縄19号	96.3	7/30	1365	中	17.0	0.64	28.5	7.3	11.9	13.7	7.2	1.0	27
		N67-10	86.6	7/20	1140	多	15.0	0.73	21.3	25.8	75.9	4.4	1.7	1.2	13
		ボゴール	78.5	7/4	952	少	18.6	0.68	29.1	9.0	4.3	32.8	3.5	2.0	15
		ソフトタッチ	76.0	6/30	888	中	17.0	0.68	25.4	4.3	70.1	38.2	6.1	0.9	28
株出 (2回目)	名護	沖縄19号	66.5	8/15	1007	中	17.7	0.61	30.0	33.8	15.2	11.8	1.5	0.9	20
		N67-10	9.4	8/23	1013	中-多	14.2	0.83	18.3	25.4	36.1	13.9	0.7	0.4	15
		ボゴール	44.0	7/20	798	少-中	17.8	0.71	26.1	0	12.5	18.0	1.5	1.1	18
		ソフトタッチ	51.4	7/19	615	中	17.9	0.85	21.5	3.2	57.9	23.4	2.8	0.7	24

名護ではマルチ栽培、石垣では露地栽培で試験を実施したデータである。

z: 裂果発生率は商品化が困難となる中程度以上の果実数/総果実数×100

表2 ハウス栽培の夏植えー促進夏実体系における果実特性および栽培特性関連形質

収穫 体系	系統・ 品種名	花芽誘導 処理時期	出蕾率 (%)	平均 収穫日	果実重 (g)	果汁			裂果 ^z 発生率 (%)	水浸状 果実 発生率 (%)	小果 腐敗病 発生率 (%)	発生苗	
						糖度 (° Brix)	酸度 (%)	糖酸比				えい芽 数 (本)	吸芽 数 (本)
促進 夏実	沖縄19号	10月上旬	100	5/18	1548	16.2	0.66	25.7	5.9	0	5.9	3.6	0.8
		11月中旬	100	6/30	1622	18.5	0.44	46.0	0	6.7	14.3	6.1	0.9
	ボゴール	10月上旬	100	4/23	1231	15.2	0.83	18.7	0	0	0	1.3	1.0
		11月中旬	100	6/9	1321	22.3	0.50	47.5	0	0	13.3	5.5	1.4
	ソフトタッチ	10月上旬	100	4/18	989	14.9	1.03	15.1	0	0	0	3.8	0.6
		11月中旬	100	5/24	830	18.4	0.82	23.2	0	0	6.3	5.9	0.4
株出 (2回目)	沖縄19号	11月中旬	78.6	7/15	1204	18.7	0.53	38.4	9.4	0	6.3	3.6	0.6
	ボゴール	11月中旬	71.4	6/16	754	20.7	0.47	45.1	0	0	15.2	1.7	0.7
	ソフトタッチ	11月中旬	73.2	6/15	646	20.6	0.71	30.0	0	2.9	14.7	3.4	0.4

促進夏実は名護支所における2017年収穫果の集計であり、株出は同試験区の2018年収穫果の集計である。

z: 裂果発生率は商品化が困難となる中程度以上の果実数/総果実数×100

[その他]

課題 ID: 2014 農017

研究課題名: 加工適性の高い高品質生食用パインアップル品種の開発

予算区分: 受託(農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業 2014~2017 年、
イノベーション創出強化研究推進事業 2018 年)

研究期間: 2014~2018 年度

研究担当者: 竹内誠人、正田守幸、與那嶺要、諸見里知絵、池宮秀和、栗國佳史、與那覇至、
仲村昌剛、大嶺悠太、出花幸之介、崎山澄寿、松村まさと、武末翔真

発表論文等: なし